

会議名	港区介護予防個別支援システム開発設定等委託 第1回事業候補者選考委員会
開催日時	令和6年10月22日（火曜日）午前10時から午前11時まで
開催場所	港区役所保健福祉支援部会議室
委員	保健福祉支援部長 新宮 弘章（委員長） 高齢者支援課長 白石 直也（副委員長） 赤坂地区総合支所管理課長 山越 恒慶（委員） みなと保健所健康推進課長 土井 重典（委員） 教育委員会事務局教育推進部生涯学習スポーツ振興課長 中林 淳一（委員）
事務局	高齢者支援課介護予防推進係
会議次第	1 開会 2 委員長・副委員長について 3 選考委員会選考スケジュール（案）について 4 事業候補者募集要項（案）について 5 採点基準表（案）について 6 閉会
配付資料	[席上配付] ・次第 ・資料1 港区介護予防個別支援システム開発設定等委託事業候補者選考委員会設置要綱 ・資料2 港区介護予防個別支援システム開発設定等委託事業候補者選考委員会委員名簿 ・資料3 事業候補者選考スケジュール及び審査方法（案） ・資料4 港区介護予防個別支援システム開発設定等委託事業候補者募集要項（案） ・別紙1 港区介護予防個別支援システム開発設定等委託提案要求仕様書（案） ・別紙2 港区介護予防個別支援システム開発設定等委託事業候補者選考基準（案） ・様式1 港区介護予防個別支援システム開発設定等委託プロポーザル質問書 ・様式2-1 プロポーザル参加表明書兼参加資格審査申請書 ・様式2-2 プロポーザル参加表明書兼参加資格審査申請書（共同事業者用） ・様式3-1 共同事業体構成書 ・様式3-2 共同事業体協定書兼委任状（共同事業体代表者用） ・様式3-3 委任状（共同事業体編成用）

	<ul style="list-style-type: none"> ・様式4 事業者概要及び業務実績 ・様式5 業務従事予定者の経歴及び専任性 ・様式6 業務従事予定者の配置計画及びスケジュール ・様式7-1 企画提案書① ・様式7-2 企画提案書② ・様式7-3 企画提案書③ ・様式8 「港区介護予防個別支援システム開発設定等委託」費用積算表 ・様式9 港区介護予防個別支援システム開発設定等委託プロポーザル参加辞退届 ・資料5-1 採点基準表（一次審査）（案） ・資料5-2 採点基準表（二次審査）（案）
会議の内容	
委員長	<p>【1 開会】 （委員長より開会の挨拶と紹介）</p>
事務局	<p>【2 委員長・副委員長について】 （挨拶と職員紹介、配布資料の説明）</p>
	<p>【3 選考委員会選考スケジュール（案）について】 （各選考スケジュールの説明）</p>
委員長	<p>意見等が無いようであれば、「選考委員会選考スケジュール」はこれで確定とする。 （一同、異議なし）</p>
事務局	<p>【4 事業候補者募集要項（案）について】 【5 採点基準表（案）について】 （資料3～5に基づき説明）～詳細省略～</p>
A委員	<p>このシステムの使用方法及び、区民にとってのメリットは何か。</p>
事務局	<p>大きく2つある。1つは、区民の教室満足度向上を図ることである。介護予防事業（教室）の前後に体力測定を実施し、システムに記録する。その結果をレーダーチャートで可視化して参加者に提供することで、効果を実感し、モチベーションの維持向上に役立っている。2つ目は、区内20か所以上で実施している、教室情報や参加者情報等を一元管理することで、教室の出席率や利用者の体力状態を分析し、事業内容の見直しに活用するとともに</p>

	に、未参加の区民へ、新聞折込等を通じて周知し、介護予防事業への関心を高めることを目的としている。
A委員	現行システムは分析機能が弱く、その部分の強化が今回の更新の目的で相違ないか。
事務局	分析機能の強化が今回の最も重要な目的である。また、システム導入から10年が経過していることや、システムの標準化対応も含め、更新が必要だと考えている。
B委員	公募要項（6）留意事項のイについて、「提案書は30ページ以内」とあるが、これは企画提案書の①～③全体で30ページなのか、それぞれ30ページずつなのか分かりにくい。明確に表記していただきたい。 また、ページ数はやや多いように感じたが、妥当なボリュームなのか。
事務局	分かりやすく明確に記載する。なお、システムの提案のため、図面等を用いることを想定しており、全体で計30ページは妥当と考える。
委員長	それでは（6）留意事項の標記を修正するように。
事務局	承知した。「企画提案書の①～③については全部で30ページ以内」と表記する。
C委員	採点の際、文章だけでは優劣が判断しにくい場合がある。図面等での提案は理解しやすく、ページ数は問題ないと考える。
B委員	提案書の中に、システムの機能要件は含まれているのか。
事務局	仕様書別紙4「機能要件表」に記載している。
D委員	参加資格に事業実績の条件を含めると、申請者が限定されてしまう懸念があるのではないか。
事務局	介護予防に関連するシステムを扱っている事業者は参加可能とするため、問題ないと考える。
委員長	では、事業実績に関しては丁寧な対応をするように。

B委員	保守運用経費に関しての採点項目があるのか。それとも開発設定経費のみで評価するのか。
事務局	採点項目としては開発設定経費のみだが、様式8「費用積算表」に今後5年間の保守運用経費も記載してもらうため、その点も加味して評価いただきたい。
B委員	加味する場合の項目はどこか。 委員の見解が異ならないよう、基準を統一すべきではないか。
C委員	保守運用経費は今後の費用面で大きな影響があるため、評価に含めるかどうか統一すべきと考える。また、評価する項目も認識を統一した方が良い。 (一同賛同)
事務局	評価項目に、費用面も含めたサポート体制について明記する。
委員長	保守運用経費の妥当性については、必要に応じ、プレゼンテーション時の質問等で確認するがよろしいか。 (一同賛同)
C委員	利用者へのフィードバックは、帳票の配布で終了か。
事務局	帳票の配布時に、専門職の指導員等が適切に指導を実施している。
C委員	評価において、帳票の説明しやすさや、分かりやすさも重要なポイントとなるか。
事務局	利用者へのフィードバック帳票等においては、分かりやすさや見やすさが重要であるため、帳票やレポート作成機能に関する評価項目の説明についても、表記を工夫する。
A委員	見積額の評価項目が見慣れない表記だが、正確か。
事務局	事務局提案のため、修正は可能である。
B委員	開発設定経費だけでなく保守運用経費の妥当性への評価のためには、本来は5年間の保守運用経費を含めた合計金額で評価するのが適切だと考える。

事務局	保守運用経費の予定価格を明示していないため、予定価格の記載における取り決めの意義がなくなる可能性がある。
B委員	そもそも開発設定経費の予定価格超過は失格事項のため、評価する必要もないのではないか。
D委員	全ての合計金額で評価する、という案について、基準額を明確に提示可能か。
事務局	あくまで「開発設定委託」のプロポーザルであるため、保守運用経費を含めた全体経費の基準の明示や評価項目への反映は難しい。
E委員	同じ評価の中に絶対評価と相対評価が混在することは適当ではないと考える。開発設定経費は、予定価格を明示しているため、絶対的基準を設定可能だが、保守運用経費は、予定価格を明示できない以上、評価の統一性や透明性に問題が生じるため、そぐわないと考える。
委員長	申請者からみて、客観性を保ちつつ説明可能な基準が求められる。そのため、参考見積価格として、保守運用経費を提案してもらい、妥当性については、第二次審査で直接確認し、その内容を二次評価に反映させるのが現実的。ただし、評価基準にある、予定価格に対する評価割合等については議論したい。
A委員	採点評価の対象となる金額割合が不規則なため、当該の評価も不規則になることが懸念だ。
E委員	評価の変更は妥当だと思うが、「安かろう悪かろう」という申請者は避けたい。
B委員	その点もさることながら、少なくとも割合の幅については統一した方がよい。
A委員	予定価格に応じ、連続的な単純評価基準にしてはどうか。
委員長	コストよりシステムの内容を重視するのであれば、A委員の意見を踏まえつつ、B委員の懸念も考慮し修正が望ましい。
事務局	承知した。

E 委員	<p>事務局に2点依頼したい。</p> <p>第一に、「費用積算表」の1 開発費用と2 運用費用の小計部分に消費税金額及びそれらの合計金額を記載する行を追加してほしい。</p> <p>第二に、第二次選考のプレゼンテーションで参加者の人数制限を設けることの検討について、次回で具体的な人数を決定して欲しい。</p>
委員長	<p>内容及び提案は以上で良いか。修正事項等の決定は委員長一任とさせてもらう。</p> <p>(委員一同、異議なし)</p> <p>【6 閉会】</p>